



令和4年度 学校経営方針

大和市立中央林間小学校
校長 吉田 美佳

学校教育目標

「未来を創る子どもたち」

～輝け、自ら学びを創り出す中林小の子どもたち～

令和の時代が始まり3年経過しました。社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0の時代」の到来、また、新型コロナウイルス感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」とも言われています。急速に変化する時代の中で、一人ひとりの子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊敬し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の造り手となることができるようにすることが必要です。中央林間小学校では、学校教育目標を「未来を創る子どもたち」と設定し、子どもの良さ・教師の良さ・家庭地域の良さを生かし、学校がそれぞれを繋げていながら「ひとり一人が輝き、自ら学びを創り出していける子ども」の育成を目指していきます。

重点目標

「いつも『何のため』を考え、自ら行動しようとする子」

子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力の育成として、中央林間小学校では、学校教育目標、児童の実態、教師の願いなどに基づき、今年度のグランドデザインの柱である重点目標を、「いつも『何のため』を考えて、自ら行動しようとする子」と設定しました。さまざまな場面で教師も子どもも、「何のための学び?」、「何のための約束・活動?」、「なんで自分も周りも大切な?」、「何のための行事?」と考えて取り組む中で、自分の意見を持って他と関わり合いながら学びを深めていく教育実践を目指していきます。

学校経営方針

中林小 3つのS (スリーエス)

めざす学校・教師像

- S**how . . . 魅力ある授業や行事
- S**ervice . . . 丁寧で愛情あふれた教育活動
- S**afety . . . 安全・安心な学校づくり



めざす子ども像

- S**すすんで学ぶ . . . 確かな学力と学習意欲
- S**しなやかな心 . . . 思いやり、豊かな心、折れない心
- S**すこやかな体 . . . 健康でたくましい体



経営方針（スリーS）の具現化へ向けて

グランドデザインの実現を目指した教育活動の展開

（1）学校教育目標「未来を創る子どもたち ～ひとり一人が輝き、自ら学びを創り出していける子ども～」の実現に向けた、縦軸（校務分掌）と横軸（学年）の校内共有と相互連携

○重点目標「何のため」を、教科指導・教科外指導において常に意識し、教師も子どもも、「何のため」を意識させ、常に自分の考えを持たせながら教育活動を展開する。

・教師が「身につけさせたい力（資質・能力）」を明確にし、子どもが自ら考え、意思をもって他と関わり合いながら学びを深めていく場面を意識的に設定する。

○教職員・外部人材・専門スタッフがチームとなり、組織的・協働的に学校運営に取り組む。

・教職員の創意工夫、コミュニケーションと協働体制を大切にする。

・各部において、取り組みの中で今年度の重点項目を決め、短期目標を設定し、OODAループを実施し、より実践的・効果的に目標達成に向けて取り組んでいく。

・子どもたちが未来社会を切り開くための資質・能力の育成を意識した学年経営の実現を図る。そのために、学年目標達成に向けてのスリーSの取り組みを具体的に設定する。

Show 魅力ある授業や行事

（2）ワクワクする好奇心を起点に知を創り出す学びの実現

○「知る」と「創る」のサイクルを生み出す教科横断的な視点に立った学びの工夫を推進する。

・感染対策を講じながらも、学びを継続する。

・「しかけ」に焦点を当てた“わかった”“楽しい”授業づくり。

・本時の目当ての明確化。課題があり、学習過程がわかる板書計画とノート指導。

・授業のルール of 定着と「あたたかい反応」。

・学習と日常生活との関連を常に意識させ、情報活用力を育成。

○個別最適な学びと協働的な学びの往還で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていく。

・指導の個別化と学習の個性化。

・探求的な学習や体験活動を通じ、多様な他者との協働、多様な学びの実現。

・習熟の時間やT Tの活用、家庭学習を生かした基礎・基本の定着。

・特定の教科を受け持つ専科教員や交換授業の導入により、教材研究の深化や授業の質の向上を図り、児童の学習意欲や学習内容の理解、定着につなげる。

○ICT環境を活用した授業づくりを積極的に研究する。

・電子黒板やデジタル教科書、一人一台端末 chromebook 等の ICT 環境を活用した授業づくり。

・校内研究に位置付け、ICT活用に向けた教師の資質・能力の向上。

・これまでの実践と ICT との最適な組み合わせの実現。

○指導と評価の一体化を図る授業改善を計画的に研修・実践する。

・児童の学習状況の適切な把握と、評価したことを指導の改善につなげていく。

・評価基準の共通理解と、評価方法・評価場面等を明確にした指導計画の作成。

(3) 特色ある教育活動の推進と創意工夫

○重点目標に沿った学校行事を実施する。

- ・各行事のねらいの明確化。「何のため」を意識した行事の計画・立案・実施。

○読書活動と「調べる学習」を推進する。

- ・図書担当と学校図書館司書、担任の連携による学校図書館教育と読書活動の推進。
- ・「調べる学習」の実践やコロナ禍における不読傾向の子ども対策。

○「何のため」を考えた道德教育とコロナ差別をなくす取り組みを推進する。

- ・互いの考えの違いを認め合うことを基盤とした全員が参加できる「考える道德」「議論する道德」の授業の実践。
- ・「やさしさマスク」をテーマにした道德の授業の全学年実施。

(4) 学び続ける教師でいる。

○教職員の人格的資質・指導力の向上を意識した積極的な取り組みを奨励する。

- ・教師一人ひとりが課題意識を持ち、校内研究・個人研究を計画的に推進。
- ・校内研究における授業実践。研究授業から得た成果を日常の授業で活用。
- ・初任者研修、経験者研修における授業実践の参観・協議の実施。
- ・寺子屋 C0 による授業力向上支援の積極的活用。
- ・県・県央・市教育センター研修等の校外研修参加による資質向上。
- ・教育力の継承と発展を意識した OJT の活性化。
(同僚職員から積極的に学ぶ、経験の浅い教員をサポートする)

Service 丁寧で愛情あふれた教育活動

(5) 「ともに生きる社会」の実現に向けた取り組み

○集団の中で子ども同士が主体的に関わり合う教育活動の充実を図る。

- ・児童会目標「めざそうおどけい」の実現に向けた児童会活動へのサポート。
- ・異年齢集団による交流と縦割り班（兄弟学年）を生かした活動の充実。
- ・「あいさつ運動」「言葉遣い」など望ましい行動様式は、教師が見本となる。
- ・朝の挨拶と2校時終了からの「こんにちは」の奨励、「ありがとう」という感謝の気持ちを忘れない指導。

○豊かな教育環境づくり。

- ・ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境。
- ・清掃活動の充実。(環境が人をつくる→教室の環境は担任と児童でつくる)
- ・校内掲示板の活用。(各学期の前半後半の刷新、学年や委員会の活用)

(6) 家庭・地域とともにある学校づくり

○家庭・地域との協働を推進する。

- ・学校経営方針やグランドデザインの公表、あらゆる機会を活用して教育活動を公開、学校 HP による情報提供。
- ・感染症対策を講じながら、学びの場を地域に求める体験活動の計画的導入。
- ・家庭・地域からの信頼に根ざしたきめ細かな対応と、不祥事防止の徹底。
- ・学校評議員や自治会長との連携。地域行事や地域会合（防犯連絡会等）の参加。
- ・PTA 行事・地域行事・おやじたちの会開催行事等への参加と相互交流の充実。
- ・学童農園ボランティア活動の協力依頼。
- ・幼保小中の連携。つきみ野中学校区4校との情報交換・協力・連携。
- ・学校評価における自己点検、自己評価（保護者アンケート）の工夫および学校関係者評価の実施。

(7) 子どもの安全・安心を保障する環境整備の充実

○学校防災マニュアルの活用し、防災訓練・防災教育の推進を図る。

- ・学校防災委員会において中林小学校学校防災マニュアルを点検、整備。
- ・学校防災マニュアルの活用と実践的な活動を位置づけた防災教育の推進。
- ・校長会・教育委員会等と連携。緊急時における適切な対応と児童の安全の確保。
- ・PS メール活用による自然災害や重大事件発生時における速やかな情報発信。

○日頃の感染対策や安全管理、子どもたちへの安全教育を実施する。

- ・年3回実施する下校指導における映像を使った指導の推進。
- ・平常時から緊急時に備えるための安全点検の実施。(危険個所の発見と改修要望)
- ・不審者侵入時に対応できるようにするための不審者対応訓練の実施。
- ・感染対策を工夫しながら学校行事の実施。(授業参観・懇談会・運動発表会・修学旅行・キャンプ・校外学習等)
- ・感染防止対策の指導。保護者への協力依頼。清潔な校内環境整備。

(8) チーム中林で取り組む安心で心安らぐ学校づくり

○個々の教育的ニーズに基づき、児童・保護者と合意形成で図ったインクルーシブ教育を推進する。

- ・学級集団の中で子どもどうしが主体的に関わり合う教育活動の充実。
- ・「支援シート」を活用した連携の推進。
- ・教室環境のユニバーサルデザイン化の推進。(学びを妨げる要因を減らす)
- ・新型コロナウイルス感染症に関する知識をもとに偏見・差別が生じないよう発達段階に応じた指導。

○問題行動や不登校児童、保護者等への対応については、相談・報告を行い、迅速かつチームで丁寧に指導・支援を行う。

- ・支援教育校内委員会や校内いじめ対策委員会による組織的な対応の推進。
- ・教育相談等の充実。子どもと向き合う時間の確保。
- ・日頃の観察とアンケート調査などによる早期発見・早期対応。
- ・教育相談コーディネーターと児童支援中核教諭を中心とした校内支援体制の整備と課題解決。
- ・SA・学校相談員、及び青少年相談室や巡回相談チーム、SSWやSCなど教員以外の職員との連携チームによる支援の計画・実践・検証。
- ・学生ボランティアの活用。
- ・保護者・地域への誠意を持った丁寧かつ速やかな対応。(早期対応が早期解決に)
- ・報告、連絡、相談による情報共有と迅速かつ適切な対応。(相談は指示待ちではなく自分の考えを持って相談)
- ・教育相談等の充実。子どもと向き合う時間の確保。

(9) 教職員の健康管理と安全対策

○子どもの学びを支える教職員の健康的な生活が、豊かできめ細やかな教育を生む。

- ・口伝方式ではなく、メモ、文書保管、データ保存による引継ぎ。
- ・出退勤管理と勤務時間や効率化を意識した働き方の実践。
- ・超過勤務時間は、月45時間以内、年間360時間以内。
- ・働き方改革好事例の活用。
- ・業務を「負担対効果」で判断し、やらなくても教育効果が変わらないものは廃止、少しやらなくても教育効果が変わらないものは少しをやらない目線で業務改善。
- ・「不祥事防止職員啓発・点検資料」の活用と打ち合わせ時に行う自己点検の実施。